

平成26年(2014年)5月6日実施

大阪狭山市議会 議会報告会まとめ

目 次

開催の状況	1
議会報告会の様子	2
『第1部 議会の報告』より	2
3月定例会議会の報告	2
コミュニティセンター	3
SAYAKAホール	4
『第2部 市民との意見交換会』より	4
コミュニティセンター	4
SAYAKAホール	6

開催の状況

大阪狭山市立コミュニティセンター（大会議室）

- ・開催時間 午後3時00分から午後5時00分まで
- ・出席議員 小原一浩、片岡由利子、北村栄司、薦田育子、鳥山 健、中井新子、西野榮一、山本尚生 以上8名
- ・一般参加 35名

大阪狭山市文化会館（SAYAKAホール）（大会議室）

- ・開催時間 午後7時00分から午後9時00分まで
- ・出席議員 田中昭善、徳村 賢、西尾浩次、林憲一郎、松尾 巧、丸山高廣
以上6名
- ・一般参加 13名

議員名は50音順

議会報告会の様子

『第1部 議会の報告』より

1部では、平成26年度(2014年度)の予算の状況や主要な事業の報告など、3月定例会議会の内容について報告しました。また、報告後、説明が分かりにくかった点などについて質問等をいただきました。

3月定例会議会の報告

1. 平成26年度(2014年度)一般会計予算について

平成26年度(2014年度)一般会計の予算総額は、歳入歳出それぞれ185億2,477万1千円となっています。平成25年度当初予算と比較すると、1.4%増加しています。

報告会では、予算の内容や主要な事業について資料をもとに説明をし、併せて、算の審査結果についても報告しました。

2. 平成26年度(2014年度)の特別会計等予算について

平成26年度(2014年度)の国民健康保険特別会計予算や介護保険特別会計(事業勘定)予算をはじめ、各特別会計等の予算の内容について資料をもとに説明し、併せて、予算の審査結果についても報告しました。

3. 条例改正や請願・要望等の審査状況について

国民健康保険条例の一部改正をはじめとする各種条例の改正内容や審査状況について説明しました。

また、請願や要望等の審査状況などについて報告しました。

報告後、参加いただいた皆さんから、次のようなご質問をいただきました。

(コミュニティセンター)

質問・要望など	回答・説明など
<p>通院に係る子ども医療費助成制度の対象を小学校6年生までを中学校卒業までとすることについて、その対象の拡大に係る経費が2,500万円と聞く。その程度の経費なら対象を拡大すればどうか。黒字決算だからということではなく、将来の見通しを立て、経費を削ってでも取り組んでいくべきと考える。</p> <p>また、高額所得者には助成に制限も必要ではないかと思う。そういう審議がされているかどうか。一方では、所得には関係なく、子どもを守るために、安心して大事に育てていきたいという気持ちはある。</p>	<p>本市では、本年4月から通院に係る子ども医療費の助成により、小学校3年生までを小学校6年生まで無料としています。</p> <p>入院に係る助成は中学校卒業まで無料となっており、通院に係る助成を中学校卒業までとすると2,500万円くらいの財源が必要となります。通院に係る助成を中学校卒業までとすることについて、議会での審議は賛否両論があり、採決の結果、継続審査と決定しました。</p> <p>この審議の過程ではいろいろな意見があり、億単位の黒字決算を5年以上続けていることから、2,500万円程度の財源は十分に見出すことができるのではないかと、また、財政運営のための積立金も増えているという現状から、その程度の財源は可能であるとのことから、通院に係る中学卒業までの医療費助成は今すぐにでも実施できるという意見がありました。</p> <p>一方で、医療費の助成を拡大して、その後、財源が不安定になったため助成対象を縮小せざるを得ない状況に陥らないために、安定的という観点から財源の確保が本当に確保できるかどうかを見極める必要から、継続審査との意見がありました。</p> <p>ただし、助成制度に係る大阪府の負担分の拡大について、知事は今年度中に結論を出し、来年度から拡大をしていきたいという意向が示されているので、大阪府が負担の拡大をした場合は、本市でもすぐに中学校卒業まで実施をすべきだという意見が本市議会の中にあります。</p>
<p>3年保育について、議会内での反対意見に将来にわたっての問題があるとのこと。</p> <p>その問題とは、どういうことを指しているのか。</p> <p>3年保育を重点的に実施するよりも、保育所を量的には拡充されてきたが、質的にまだ十分ではないと思う。</p> <p>住宅地に近い箇所や駐車場がある箇所など、そういう保育所を質的には取り組まれていると思う。また、量的には待機児童がゼロになってきているが、保育所の質をもう少し深めてほしい。</p>	<p>本市の幼稚園は2年保育です。数年前、市の審議会のような場面で、市内の幼稚園10園を6園くらいにし、保育所を充実するという審議の経過がありました。市民の市立幼稚園への就園率は低く、50%を切っているのではないかと思います。また、3年保育を実施したところで就園率が増えるだろうかとも思っています。市内の幼稚園10園を6園くらいにしてはどうかと審議された当時から2年保育を3年保育にすべきという意見もありませんでした。</p> <p>こうしたことも踏まえ、保育士など職員の雇用、施設整備の課題を解決した上で就園率の増加が見込めるのか、本市の将来を見据えて反対意見としました。</p>

(SAYAKAホール)

質問・要望など	回答・説明など
都市宣言塔設置事業が1,000万円。これらの宣言はしなくても市民はわかっているはずで、設置することでどのような効果があるのか。また、広報誌でアピールすればより効果が期待できるのではないか。	現在、市役所前にも宣言塔が設置していますが、以前は金剛駅東口のロータリー内にも設置されていました。これは他市においても行われていることですが、本市においても核兵器廃絶平和などの宣言をしている都市であるということ宣言塔の設置により、市民の方をはじめとして広くアピールすることで、市としての姿勢や施策の取組みを進める上で効果があります。
予算の額や説明を読み上げられても理解しづらいので、資料を配布するなどアイデアや工夫を凝らして、市民にもう少しわかりやすい方法で取り組んでほしい。	【補足説明】今後の議会報告会の開催方法などについて、市民の皆さんに参加して良かったと思っただけよう検討していきます。

『第2部 市民との意見交換会』より

第2部では、「減災・防災対策について」、「介護・高齢化対策について」、「子育て支援について」をテーマとしつつ、後半はテーマを設けずに自由に意見を述べていただき、活発な意見交換が行われました。各会場における質疑、意見や要望等の状況は次のとおりです。

なお、市議会として議論を深める必要のある意見や要望等については、対応に時間を要する場合がありますので、今後の対応が決定した段階で、改めてお知らせしたいと考えています。

(コミュニティセンター)

意見・要望など	回答・説明など
今年度もいろいろな形で防災関連の予算が組まれているが、一番肝心の防災・減災に対するリーダーとなる人の育成が全然できていないというのが現状である。 自主防災組織の形骸化が進んでいることは知ってもらいたい。	本市の自主防災組織の組織率については、現在、68%くらいとなっています。 消防団における訓練や、本市では安全・安心スクールを開催して勉強会を実施したり、中学生に対して安全・安心推進リーダーの育成に向けての活動を行ったりしています。 ご提言いただいたように、例えば、学校と行政、それと地域の動きとがリンクしてこない、その地域の人たちを守っていけない、まだ十分に手が届いていないという認識を持っていますので、今後も防災・減災に対するリーダーを育成していくことが進むよう取り組んでいきます。

<p>防災の訓練の放送について、屋内においても、また、屋外においても、放送が何を言っているかわからない。市の担当に確認したところ、変えることができないとの回答であった。聞き取りやすい音声にしてほしい。</p>	<p>防災行政無線が聞き取りにくいということについては、確認した上で対処していきます。</p>
<p>狭山池まつりなど、狭山池にはよく行くが駐車場が近接にないため、日曜日などは市役所の駐車場を開放してもらえないか。また、サヤカホールのいろいろな催しに参加するが、駐車料金の無料が1時間では短く、2時間は無料にしてほしい。</p>	<p>狭山池まつりの際、周りに駐車場はありません。今年のまつりもたくさんの方に来場していただきましたが、電車などの交通機関を利用されていました。</p> <p>日曜日などに市役所の駐車場を開放してほしいという要望については、駐車台数の課題もあるため、高齢者又は身体障がい者の方のみといった規制をもって、今後検討していければと思います。また、サヤカホールの駐車料金については、借地している関係などもあり、少し割高になってしまいます。</p>
<p>高齢化がとてと進んでいると感じる。若い世代が大阪狭山市でどのように暮らし、子どもを産み育てていってもらえるかという子育ての支援はとても大事だと思う。</p> <p>近隣の堺市や富田林市も通院に係るこども医療費助成の対象を中学校卒業までになっているので、是非、実現してほしい。</p> <p>幼稚園の3年保育については、大阪狭山市には私立幼稚園がない。3歳の子どもが45分もかけて通園するというのは、毎日遠足に出かけているようなもので、施設や予算の問題もあるが、是非、実現してほしい。</p> <p>保育所入所が決まらなると仕事先との関係がうまくいかない。保育所入所決定について、1日でも早く通知されるよう強く要望する。</p> <p>中学校の教室にエアコンが設置されることになったが、今の夏は昔と違って勉強できる状態にないほど過酷である。是非、小学校の教室にも設置してほしい。</p> <p>毎年の就学援助金の申請書が4月末からしか配布されない。入学説明会など、もっと早い時期に配布してほしい。</p>	<p>【補足説明】通院に係る子ども医療費助成については、平成26年4月1日から助成対象を小学校3年生から6年生に拡大しています。議会では、中学校卒業まで子ども医療費助成拡充を求める請願を受理しており、この請願書に賛成する意見と、「今後、財源の見通しが確認できれば、中学校3年生までに拡大していきたい」という意見があり、継続審議となっています。</p> <p>幼稚園の3年保育実施については、市立幼稚園の3年保育の実現を求める要望書を受審しており、議会の中に賛成・反対・継続審議の意見があり、継続して審議することになっています。</p> <p>保育所の入所決定通知については、入所決定通知を少しでも早く出せるように要請しています。</p> <p>小学校教室へのエアコン設置については、議会に質問をした会派がありますが、市は「他の事業の進捗状況も勘案しながら、さらに検討」と回答しています。</p> <p>就学援助金の申請書については、少しでも早く配布できるよう要請しています。</p>
<p>子育てのまちにするために、どのような予算が組まれて、また、どのあたりに焦点を当てて組まれたのか。</p>	<p>【補足説明】平成27年度から施行予定の「子ども・子育て支援新制度」に向けた取組みとして、子ども・子育て支援事業計画策定業務委託料270万円、同システム構築業務委託料2,900万円など、この事業に焦点を当てて予算を組んでいます。また、その他の主なものには、南第二幼稚園遊戯室屋上の防水工事費700万円、子育て支援センター運営・施設管理事業費1,472万7千円などがあります。</p>

<p>3月定例会月議会での質問に対して、市長は移転については知らなかったと答弁したが本当か。</p> <p>狭山ニュータウンの基幹病院、近大病院が堺市に移転するというのは本当に大変なこと。バスの乗客もいなくなり、狭山ニュータウンのまちづくりに対する影響は計り知れないと思う。</p>	<p>昨年12月に、市長は大阪府と近畿大学から病院の移転について初めて聞いたということです。</p> <p>議員も関心がないわけではなく、市当局から説明を受け、本市にとって計り知れない打撃になるとどの議員も認識しています。しかし、現実の問題として白紙に戻して本市に残るといことはあり得ないと思います。</p>
<p>市議会議員の定数については議会内で議論され、15名の現状維持という決定になったが、一般の民意としては削減の方が多数ではないかと思う。</p>	<p>市議会議員定数に係る市民の皆様からのご意見、ご要望をもとに、議会として審議を尽くしました。</p>
<p>(その他のご意見・ご要望など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員は襟を正してください。前回の議会報告会の際の質問においても議員の目線、考え方が市民感覚とずれている。 ・現在、政府では介護保険制度についていろいろ検討しているが、私たち一般の国民からすると大変使いにくいような制度を考えているようだ。今後、市から議会にいろいろな提案がされてくると思うが、是非とも私たちの住民の立場を考えて、もっと使いやすいような制度となるよう、また、場合によれば国に対していろいろと意見を上げてほしい。 ・河内長野市ではお年寄りの方に保育の経験みたいなことをしているので、大阪狭山市でもお年寄りとそのお孫さんが交流できる場を広げてほしい。 	

(SAYAKAホール)

意見・要望など	回答・説明など
<p>昭和55年以前に建築した木造住宅に住んでおり、市の耐震診断の補助制度を使って診断をしたところ、やはり非常に危険な状態であるとされた。その後、市からなぜ耐震補強工事をしないのかというアンケートがあったが、工事がなかなか実施できないのは、相当な費用がかかるためである。このように工事の実施ができない現状をどのように受けとめているのか、また、それを進めるためにどのような検討をしているのか。耐震補強工事の補助金額の増額も求める。</p>	<p>今年度において耐震補強工事の補助金額については、現行の補助金額に30万円が加算されますが、耐震改修が進まない現状には工事費用や補助金が大きく影響していると思います。例えば居間だけをシェルターのように耐震工事した場合でも補助金が全額出せるようにできないかといった意見等が議会内にもあり、今後も調査・検討していきます。【補足説明】公的認証を受けたシェルター工法(一室の耐震工事)には、耐震工事の補助制度があります。</p>
<p>サヤカホールは、耐震診断は行われたか。市民だけでなく他市町村からも大勢の来客があるが、建物はガラス面が多く、地震の際は危険と感じている。</p>	<p>昭和56年5月以降に建築されたものは耐震診断の対象ではありません。したがって、サヤカホールは耐震診断の対象ではありませんが、地震の影響などについては検討していきます。</p>
<p>最近の報道では認知症の方が850万人、認知症によると思われる行方不明者が1万人いるという大変な状況である。また、日本で成年後見制度を利用しているのは20万人くらい、日本と同様の制度を持つドイツでは120万人を超える利用がある。行政としても対策を進めてほしいが、課題が大きいと感じる。こうした中、平成27年度からの5箇年計画の地域福祉計画策定事業が実施されるということなので、孤立死の実態など、どのような支援が地域においては必要なのかという現状を把握し、実効性のある高齢者支援を計画に盛り込んでほしい。</p>	<p>昔からの地域における地域コミュニティ、新しい住宅街においても地域コミュニティの形成がされてきており、本市の中でも地域ごとに高齢者に対する環境や支援に違いがあると感じていますが、こうした地域ごとの特性を生かしながら、ますます増加する高齢者の支援対策などに取り組んでいきたいと思っています。</p>

<p>通院に係る子どもの医療費助成が、小学校3年生までが小学校6年生までに拡充されたのは大変前進だと思う。子どもを持つ親にとっては「通院も中学校卒業まで子どもの医療費助成拡充を求める請願」のとおり中学校卒業まで助成してもらえると大変助かる。議会においてはこの請願が継続審査と議決されているが、早く可決されることを願っている。</p>	<p>ご意見は議会としても十分理解しています。しかしながら、助成制度としては、対象年齢を一度上げれば下げることができないと考えています。大阪府知事は平成27年度から市町村の子どもの医療費助成制度の支援を拡充したいという意向も示しており、将来においても継続した制度運営ができるものとするため、議会においては継続審査とした上で、もう少し状況を見ながら判断していきたいと考えています。</p>
<p>国民健康保険のあり方が市町村ごとに違うように思う。全国一律の制度にすれば効率が図られると思うが、一律の制度とするようなこうした呼びかけを市としてはできないのか、また、行政として行うべきではないのか。このような点を踏まえて、子ども医療費助成制度についても全国一律な対応とすべきではないのか。</p>	<p>現在は保険者である市町村ごとに保険料などに違いがありますが、平成27年から平成29年までの間にその保険者を都道府県に移す予定とされています。また、子どもの医療、子育てについては、本来は国が行うべきと考えており、市も議会も、国や大阪府に対しては必要な働きかけを行っています。</p>
<p>子ども医療費助成制度の拡充に伴う財源の確保については、議員定数削減を求める請願があったように、3名程度を削減すると財源が確保できるのではないかと。議員定数削減は民意だと思うので、身を削る改革を求めたい。</p>	<p>【補足説明】議員定数に関しては、平成26年3月定例月議会において、議員定数の削減を求める請願と議員定数の現状維持を求める要望が市議会に提出されたため、総務文教常任委員会で審査しました。</p> <p>委員会では次のような意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員定数は、人口、面積、担税力等の配慮が必要で、現行定数15人を少なくとも12人にすることを求められていることは、市議会の重要な責務に支障を来たさない範囲で、妥当と考えられる。 ・議員定数の削減は、地方議会に対する民意の反映度が低下し、行政に対する管理機能の低下にもつながる。定数は現状維持した上で、議員力のアップと議会力の向上に努め、適正な定数を模索しながら設定しなければならないと考えています。 ・1名削減した前回の選挙から、その削減の経費効果や価値判断の検証ができていないため、今後も継続して審査していく必要があると考えています。 <p>これらのような意見があり、議員定数の削減を求める請願と議員定数の現状維持を求める要望について採決した結果、議員定数に関しては、現状の15人を維持していくとの結論に至りました。</p>
<p>賃金を抑制するためなのか、非正規の市職員が大変増えている。日本の人口が減少している要因として、生活が安定していないということが要因としても考えており、日本の未来や展望のためにも賃金の抑制や非正規雇用を増やすべきではないかと思っている。その上で、公務に携わっていく者についても、住民に寄り添い、専門性を持って継続して仕事ができるような雇用が必要ではないか。</p>	<p>労働者派遣法がいろいろな形で適用されてから若者世代の雇用形態が変わってきており、正規雇用が難しい状況にあると思います。このような状況においては社会保障も難しく、雇用制度の問題についてはそれぞれの議員が訴えてはいますが、議会全体として考えていくような機会を持ちたいと思います。</p>

<p>定年後、国民健康保険料を支払うこととなって、その額の高さに大変驚いた。保険料が払えず、無保険になっている方が全国に増えていると聞いていたため、自分の年収に占める割合が本当に高く、払いたくても払えない方がいるということを実感した。国民健康保険料が市民の暮らしをいかに圧迫しているかということを知っていたなら、議会でもその議論になっていくのではないかと思う。国や大阪府に対しても働きかけながら、国民健康保険料の引下げを求める。</p>	<p>国民健康保険制度そのものに問題があると思っており、保険料が高いという声が圧倒的です。税金の場合は一定の所得までは免除、それ以上の場合は税金がかかってきますが、国民健康保険の場合は所得がなくても保険料がかかりますので、所得が少ない人ほど負担が重いということになります。国の負担がだんだんと下がっているため、保険料に負荷がかかることになっています。市における国民健康保険制度の運営は大変な負担であり、議長会などを通じて、国や大阪府に対して負担が軽減されるよう要望しています。また、国民健康保険料の引下げについては切実な問題であると認識しているものの、財政上の問題などで難しい部分もありますが、制度そのものについて十分考え、持続可能な方向に検討していきたいと思っています。</p>
<p>近大病院、医学部も含めて泉ヶ丘に移転すると、1月中頃の新聞発表で非常に驚いた。本市にとっては経済的な面においても大きな損失である。病院の一部を残すということではなく、医学部を残すことはできないか、また、移転した場合のその後の利用などをどのように考えているのかを聞きたい。</p>	<p>議会においても、突然の出来事と知ったのは事実です。この移転の話が出る前、10年くらい前に耐震化の問題などから近大病院は建て替える方向であったと聞いていました。泉ヶ丘プールや府営住宅の建替えなどの要因も重なりこのような事態になったと推測しますが、今後は南河内の医療圏域の問題等もあると思いますので、議会としても市と一緒に、本市の発展につながるような方向で考えていきたいと思います。</p>
<p>多くの議員が近大病院の移転について議会の一般質問で取り上げており、市は移転については知らなかったと答弁している。しかし、前近大理事から直接聞いた情報では4・5年前からこの話を本市や大阪府にも相談し、もちろん理事会にも諮った上で、10年後に泉北に移るということが決定しているとのことであった。市はなぜ知らなかったと答弁したのだろうか。</p>	<p>【補足説明】平成26年6月定例月議会での一般質問に対し、次のような答弁がありました。 平成23年夏ごろ、近畿大学から建て替え等を行うにあたり、東大池公園を借用できないかという相談はありましたが、移転について進めているという報告があったのは、昨年12月です。それまでは、移転について、一切事前の相談はありませんでした。 また、近畿大学としても、医療圏を越えての病院移転については、昨年6月に厚生労働省から一定の要件を満たせば法制度上可能との助言をいただいたということで、その後、移転の動きが具体性を帯びてきたと聞いています。</p>
<p>狭山池を世界遺産にしたいと思っている。富士山では20年かかった。議会でもしっかりとした研究が必要であるが、実現不可能な議論では不必要な支出を伴うことがあるため、今後の大きな課題だと思う。奈良県が祭典を行った際には250億円の動きがあったそうだが、狭山池築造1400年祭については大阪府とどのように交渉し、そして、世界遺産へは文化庁とどのように交渉していくのか。狭山池の祭典を行うのであれば、市民を挙げての取組みとして、実績を残したいと思っている。</p>	<p>本年3月の国の文化審議会において、狭山池の出土木樋などが重要文化財に指定される答申がなされ、狭山池に係る土木技術をはじめとして狭山池全体を捉えて、遠い将来になると思いますが、世界遺産をめざしていく夢を持って取組みを判断していくべきと思っています。また、狭山池築造1400年祭についても、市民の手づくりによるものとして、本市のPRにつがっていくものになりたいと思っています。</p>

<p>ダイエーの前の歩道の白線はきれいに引いてあるが、このサヤカホール前の白線は消えている。大きいテーマの議論も必要であるが、市民の目の届く小さなところにも議員には気がついてほしい。</p>	<p>【補足説明】平成26年6月定例会月議会での一般質問に対し、次のような答弁がありました。</p> <p>路面標示の内、区画線については、市道は市、国道や府道は大阪府富田林土木事務所で維持管理をしています。また、横断歩道や一時停止などの交通規制に関する道路標示については、警察署の所管となっています。</p> <p>市役所南側交差点にある横断歩道については、すでに警察署が把握し、工事予定箇所に入っていると聞いています。</p> <p>道路舗装の表面は、自動車が走行する際、タイヤの摩擦などにより劣化します。本市では定期的に路面標示の状況を点検し、対応していますが、今後も引き続き、適正な維持管理に努めます。</p>
<p>(その他のご意見・ご要望など)</p> <p>・来年の選挙については、各会派のビジョンと政策をしっかりと打ち出してもらいたい。</p>	